

清瀬市の

わかりやすい決算書

～清瀬市のまちづくり報告書～



令和5年度決算

目 次

◇ 決算とは？	1
◇ 歳入の状況	2
◇ 歳出の状況	3
◇ 歳出【目的別】	4
◇ 歳出【性質別】	5
◇ 令和5年度の主要事業	6
◇ 決算の特徴	12
◇ 積立金現在高の状況	13
◇ 財政指標	14
◇ 借金と将来負担	16
◇ 人件費削減の取組	19

表紙の写真

令和6年1月13日に清瀬駅北口ロータリーで開催された「消防団出初式」の様子です。消防団員による分列行進、一斉放水や東京消防庁の音楽隊、カラーガーズ隊による演奏・演技などの催しを通して、現在の消防力を広く公開し、消防への理解と信頼へ繋がりました。

決算とは？

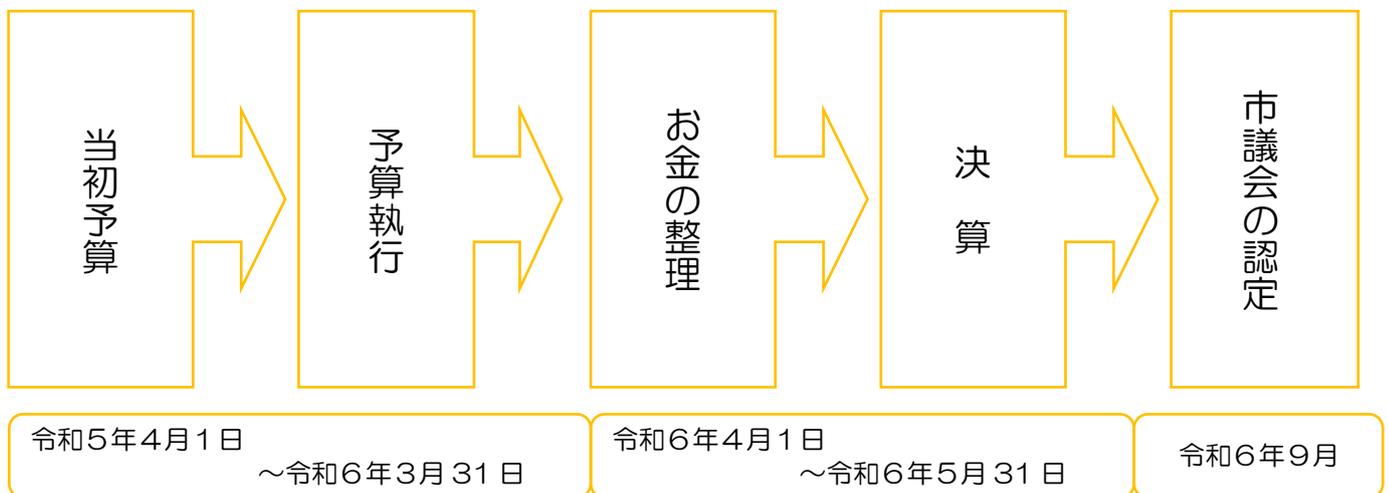


そもそも決算とは何でしょうか？



新しい年度が始まる前に、1年間（4月から翌年3月まで）にどのくらいの収入があるか、その収入をもとにして、どのような行政サービスを行うのかを計画し、その支出を見積ったものが予算です。それに対して決算とは、1年間にどれだけの収入があって、その収入をどんな使い道でどれだけ支出したのかを示したものです。また、市役所では一般企業や家庭で言う「収入」、「支出」のことをそれぞれ「歳入」、「歳出」と言います。

◆決算までの流れ（令和5年度決算認定までの流れ）



清瀬市の決算は黒字？赤字？



会社の決算においては黒字か赤字かで業績を判断していますが、市役所はどのようなのでしょうか？



市役所において黒字または赤字は、「**実質収支**」というものから判断します。

「実質収支」＝歳入総額－歳出総額－次の年に使うことが決められている金額

実質収支がプラスなら黒字、マイナスなら赤字となります。

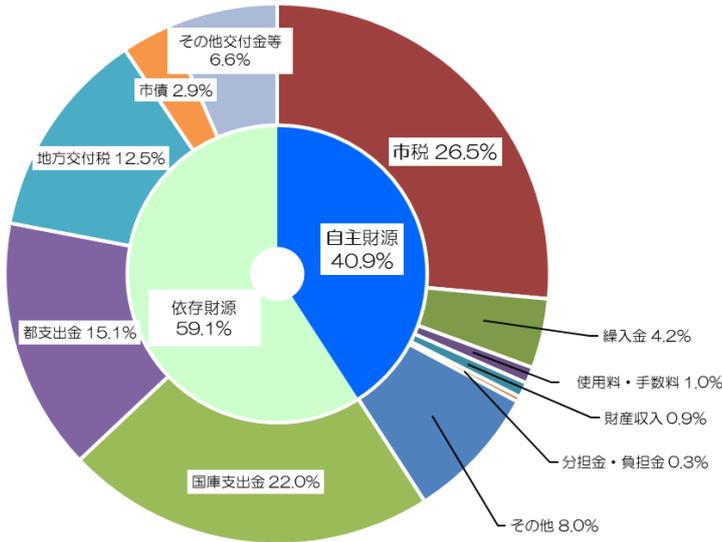
清瀬市の令和5年度決算においては、歳入は382億1,784万円に対して、歳出は361億910万円でした。差引21億874万円の余ったお金から、次の年（令和6年度）に使うことが決められている3億6,535万円を差し引いた17億4,339万円が実質収支となります。実質収支がプラスであることから、清瀬市の令和5年度決算は17億4,339万円の黒字ということになります。

歳入の状況



清瀬市が毎年使うお金はどのように
賄っているのでしょうか？

【歳入の構成比】



市役所の歳入は市税や使用料などの市が自主的に徴収できるお金である「**自主財源**」と国や都から交付されるお金や金融機関等からの借入れをする市債などの「**依存財源**」に分類することができます。清瀬市は自主財源よりも依存財源の方が多い市です。特に、市税が歳入額に占める割合は26.5%で多摩26市平均の40.4%を下回っており、市税収入が少ない状況です。自主財源の比率が高ければ、自由に使えるお金が多く、財政運営上望ましいとされています。自主財源の強化が清瀬市の大きな課題です。

◆一般会計歳入決算

項目	説明	金額	前年度比 (増減額)
自主財源	市が自主的に決定し、徴収できる財源	156億3,188万円	9億5,157万円
市税	市民の皆さんから納めていただく税金	101億1,645万円	1億5,106万円
個人市民税	均等割と所得割から構成	48億2,942万円	1億6万円
法人市民税	均等割と法人税割から構成	2億7,039万円	▲1,101万円
固定資産税	土地、家屋、償却資産に課される税金	37億6,376万円	4,506万円
軽自動車税	軽自動車の所有者が納める税金	8,912万円	218万円
市たばこ税	市内のたばこ販売小売店が納める税金	4億531万円	335万円
都市計画税	都市計画事業等に用いられる目的税	7億5,844万円	1,142万円
分担金・負担金	事業にかかる経費の一部を受益の程度に応じて利用者にご負担いただくお金	1億2,137万円	▲1,679万円
使用料・手数料	市営住宅使用料やごみ処理手数料など	3億7,267万円	▲693万円
繰入金	市の基金(貯金)からの取崩しなど	15億9,226万円	4,635万円
財産収入	市有の土地などの売却収入	3億4,589万円	3億3,587万円
その他	寄附金や前年度からの繰越金など	30億8,324万円	4億4,201万円
依存財源	国や都から交付される財源	225億8,596万円	▲2億8,937万円
国・都支出金	市の行政サービスを行うために、国や都から交付されるお金	141億8,560万円	▲1億8,779万円
地方交付税	国から財政力不足の自治体へ交付されるお金	47億9,177万円	2,854万円
市債	国や金融機関等からの借入金	11億2,600万円	▲2億2,500万円
其他交付金等	国や都が集めた税金を各自治体へ再配分する譲与税や地方消費税交付金など	24億8,259万円	9,488万円
合計		382億1,784万円	6億6,220万円

歳出の状況



清瀬市は令和5年度に何のために、どのようにお金を使ったのでしょうか？

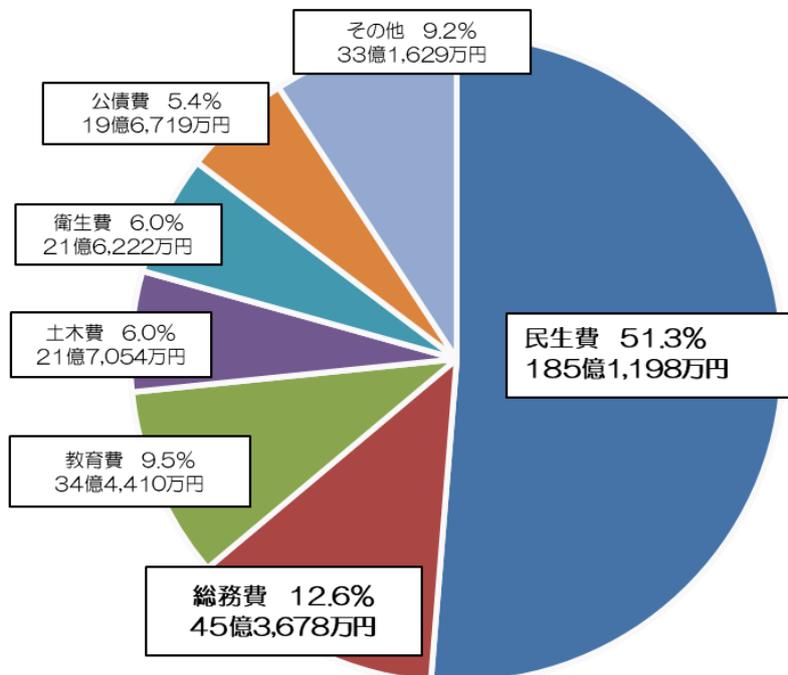


清瀬市の令和5年度のお金の使い道を知るためには、2種類の確認方法があります。

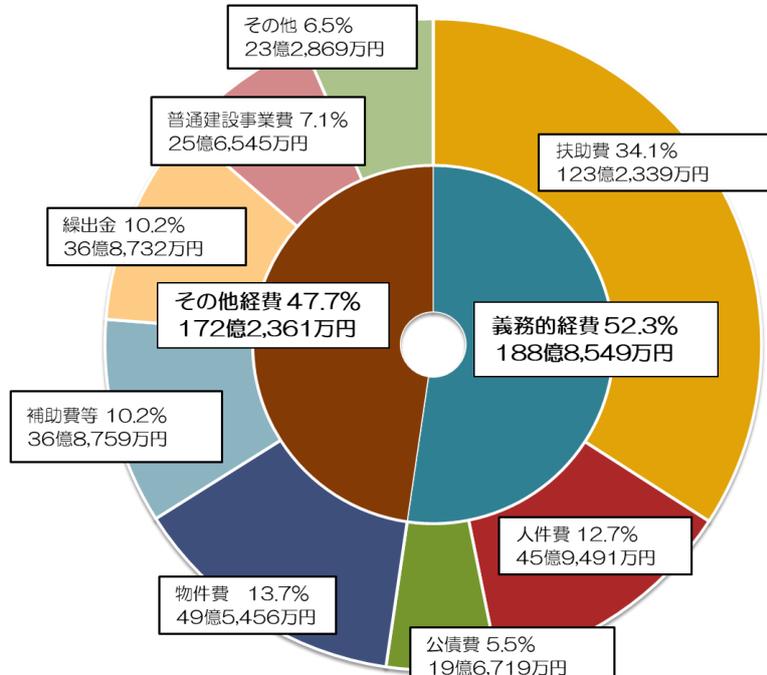
- **目的別経費**：何のためにお金を使ったか。
例えば・・・子育て支援のために【民生費】、けやき通りの整備のため【土木費】
- **性質別経費**：どういう用途にお金を使ったか。
例えば・・・児童手当の給付に【扶助費】、けやき通りの枝の剪定作業に【物件費】

清瀬市の歳出では、目的別経費における民生費の割合が、全体の51.3%と決算額の半分以上を占めていることが大きな特徴となっています。さらに性質別経費では、毎年必ず支出しなければならない義務的経費（人件費、扶助費、公債費）が、全体の52.3%と多摩26市の中で6番目に高い割合となっており、他市と比較して財政構造の柔軟性が低い状態であると言えます。

【目的別歳出の構成比】



【性質別歳出の構成比】



4ページと5ページで目的別経費、性質別経費がどのようなものか、またそれぞれいくら使ったのかみてみましょう。

歳出【目的別】

◆一般会計決算（目的別経費）

項目	説明	金額	前年度比 (増減額)
議会費	議員の報酬や議会運営などにかかる経費	2億9,511万円	526万円
総務費	庁舎などの管理、市税の賦課徴収、戸籍事務など市役所の一般的な仕事にかかる経費 ★清瀬駅南口地域児童館・中央図書館等複合施設及び中央公園整備事業における実施設計業務を行いました。	45億3,678万円	2億4,869万円
民生費	障害者福祉や生活保護などの社会保障、また児童手当などにかかる経費 ★住民税非課税世帯等に対する物価高騰対応重点支援給付金の支給を行いました。	185億1,198万円	5億7,263万円
衛生費	予防接種やがん検診などの健康推進、母子保健、また公害防止やごみ収集などにかかる経費 ★インフルエンザワクチン予防接種費用助成を拡充しました。	21億6,222万円	▲13億664万円
労働費	労働者環境の向上や就労支援などにかかる経費	599万円	▲35万円
農林業費	農林業の振興にかかる経費 ★「清瀬ひまわりフェスティバル」を4年振りに開催しました。	1億1,392万円	2,155万円
商工費	商工業の振興にかかる経費 ★物価高騰の影響を受ける市内商工業者を支援するため、経済変動対策商工業者支援事業を実施しました。	2億3,635万円	▲1億3,047万円
土木費	道路や公園、市営住宅の管理などにかかる経費 ★市民の安全で快適な生活を確保するため、けやき通りなどの道路舗装打換を行いました。	21億7,054万円	6億885万円
消防費	火災、地震等の災害から市民を守るための経費 ★消防ポンプ自動車の運転に必要な準中型運転免許（5トン未満）を消防団員が取得する際の教習費用を助成しました。	10億3,086万円	▲1,363万円
教育費	小中学校の運営費、図書館や博物館などの生涯学習、文化振興などにかかる経費 ★物価高騰の影響を受ける子育て世帯を支援するため、給食費（1ヵ月分）相当額の支援を実施しました。	34億4,410万円	5億3,630万円
公債費	事業を行うために国や金融機関等から借りた市債（借金）の返済金	19億6,719万円	2,001万円
諸支出金	他の項目に含まれない経費をまとめたもの	16億3,406万円	3億6,966万円
予備費	緊急に支出を必要とする場合に備えて用意しているお金	0万円	0万円
合 計		361億910万円	9億3,187万円

★マークは令和5年度に行った主な事業や近年の特徴を説明しています。

歳出【性質別】

◆一般会計決算（性質別経費）

項目	説明	金額	前年度比 (増減額)
義務的経費	人件費 市職員の給料や市議会議員の報酬・社会保険料などにかかる経費 ★職員数・人件費の推移については19ページで詳しく説明しています。	45億9,491万円	▲1億2,408万円
	うち職員給与等 人件費のうち市職員にかかる経費	26億901万円	894万円
	扶助費 福祉などの生活支援及び児童手当などの給付にかかる経費 ★物価高騰対策として、住民税非課税世帯等や子育て世帯に対し、給付金を支給しました。	123億2,339万円	7億8,224万円
	公債費 事業を行うために国や金融機関等から借りた市債（借金）の返済金	19億6,719万円	2,001万円
	小計 毎年必ず支出しなければならない経費	188億8,549万円	6億7,817万円
その他経費	物件費 物品の購入、光熱水費、委託料などにかかる消費的経費 ★令和3・4年度に引き続き、学童クラブの指定管理者制度の導入などを行いました。	49億5,456万円	▲2,799万円
	維持補修費 施設の維持管理にかかる経費 ★市内各所の道路補修などを行いました。	5,184万円	▲46万円
	補助費等 各種団体への補助金や一部事務組合の負担金などにかかる経費 ★コロナ禍で影響を受ける市内の事業所等に対する支援等を行いました。	36億8,759万円	▲7億2,056万円
	普通建設事業費 道路や公園、小中学校校舎など、社会資本の形成にかかる経費 ★小学校体育館大規模改修事業や市内各所の道路整備などを行いました。	25億6,545万円	1億3,461万円
	災害復旧費 大雨、暴風、地震などの災害により被災した施設等を復旧するための経費	0万円	0万円
	積立金 各種基金（貯金）への積立金 ★市内公共施設の整備等に備え、公共施設整備基金に6億1,680万円を積立てました。13ページで詳しく説明しています。	22億5,468万円	7億4,874万円
	貸付金 奨学資金の貸付など、市が一時的に貸し出す経費	1,117万円	▲1,256万円
	投資及び出資金 下水道事業会計へ出資するための経費	1,100万円	▲94万円
	繰出金 特別会計の収入を補うための経費 ★医療費の増加や介護サービス利用の増加により、国民健康保険事業特別会計、介護保険特別会計などへ一般会計からお金を補填しています。	36億8,732万円	1億3,286万円
合計		361億910万円	9億3,187万円

★マークは令和5年度に行った主な事業や近年の特徴を説明しています。

令和5年度の主要事業

① 安全でうるおいのある暮らしができるまち

令和6年「清瀬市20歳のつどい」の開催及び衣装レンタル等補助を実施	
市民協働課 ☎042-497-1803	
事業実施日 R6.1.7	事業費 48万円
	動画製作委託費 15万円 清瀬の20歳応援事業補助金 8万円 その他諸費 25万円
	財源内訳
一般財源	48万円
決算説明書掲載ページ	
【歳出】123ページ	
<p>より多くの方が式典に参加しやすい環境をつくることを目的に、令和6年の「清瀬市20歳のつどい」の対象者に向けて、式典に参加される際の振袖等を用意することが経済的に困難な方に、レンタル費用等の一部を補助しました。</p>	

女性デジタル人材育成事業を実施	
男女共同参画センター ☎042-495-7002	
実施期間 R5.6.19~R6.3.31	事業費 500万円
	研修等委託費 500万円
	財源内訳
国費	375万円
一般財源	125万円
決算説明書掲載ページ	
研修の様子	【歳入】47ページ 【歳出】125、127ページ
<p>女性の就業や所得向上のため、リスキングや再就職を希望する女性を対象にデジタルスキルを習得する研修を全9回開催しました。そのほか、変化する女性の「働き方」の解説のほか、求人情報の提供や相談など就労に繋ぐ支援も実施しました。</p>	

郷土博物館歴史展示室改修工事を実施	
シティプロモーション課（郷土博物館） ☎042-493-8585	
工事完了日 R5.11.2	事業費 4,972万円
	改修工事費 4,972万円
	財源内訳
教育基金	4,972万円
決算説明書掲載ページ	
リニューアルした歴史展示室	【歳入】67ページ 【歳出】131、133ページ
<p>清瀬の通史をより見やすく・詳しく紹介することを目的に、資料の保存・展示に適したケースへの改装等を含んだ展示ホールと歴史展示室の改修工事を行いました。また、歴史展示室には清瀬の歴史の特色である「清瀬と結核の歴史」を紹介する展示コーナー等を新設し、より歴史・文化や文化財を知ってもらう拠点としてリニューアルしました。</p>	

下宿地域市民センターいこいのテラス整備工事を実施	
生涯学習スポーツ課 ☎042-497-1815	
工事完了日 R5.10.11	事業費 517万円
	整備工事費 517万円
	財源内訳
	都費 510万円 一般財源 7万円
	決算説明書掲載ページ
いこいのテラスを利用する市民	【歳入】53ページ 【歳出】325、327ページ
<p>施設の利用促進及び利用者の利便性向上や、にぎわいの創出を目的とした地域の憩いの場として、下宿地域市民センター入口横に「いこいのテラス」を整備しました。</p>	

② 健幸でともに支え合うまち

がん患者ウィッグ等購入費用を助成	
健康推進課（健康推進係） ☎042-497-2075	
実施期間 R5.5.1～R6.3.31	事業費 24万円
	助成金 24万円
	財源内訳
	都費 12万円 一般財源 12万円
	決算説明書掲載ページ
アピアランスケアについて説明する医療従事者（イメージ）	【歳入】57ページ 【歳出】209、211ページ
<p>アピアランスケア（病気やその治療に伴う外見の変化をケアすることで生活の質を維持すること）への支援として、がん治療による毛髪の減少がある方や乳がんの手術を受けた方を対象に、医療用ウィッグ、胸部補整具などの購入等費用への一部助成を実施しました。</p>	

きよせWalking Mapスタンプラリーを実施	
健康推進課（成人保健係） ☎042-497-2076	
実施期間 R6.1.16～R6.2.29	事業費 432万円
	運営管理費 432万円
	財源内訳
	都費 216万円 一般財源 216万円
	決算説明書掲載ページ
きよせWalking Mapスタンプラリー事業の広報見出し	【歳入】57ページ 【歳出】211ページ
<p>「きよせWalking Map」の改訂に併せ健康寿命の延伸を目的として、健康無関心層を含む市民が、GPSと連動したWEB地図上の設定コースを歩くことで、ポイントを獲得し、貯まったポイントを抽選で景品に交換できる「きよせWalking Mapスタンプラリー」を実施しました。</p>	

③ 子どもたちを健やかに育むまち

清瀬駅南口地域児童館・中央図書館等複合施設及び中央公園整備事業における実施設計業務を実施	
未来創造課 ☎042-497-1802	
事業完了日 R6.3.31	事業費 6,188万円
	実施設計委託費 6,188万円
	財源内訳
	都費 6,180万円 一般財源 8万円
	決算説明書掲載ページ
整備後のイメージ	【歳入】53ページ 【歳出】107ページ
<p>令和4年3月に策定した「清瀬駅南口地域児童館・中央図書館等複合施設及び中央公園整備基本計画」に掲げた事業コンセプトや『まちに新たなストーリー』のキャッチフレーズを踏まえ、南部地域に新たな児童館を整備すると共に、図書館、市民センターの機能が入った複合施設の建設にあわせた中央公園の整備等各種工事の実施設計を行いました。</p>	

高校生等の医療費を助成	
子育て支援課（子育て支援係） ☎042-497-2088	
実施期間 通年	事業費 3,150万円
	扶助費（医療費） 2,491万円
	運営管理費 575万円
	その他諸費 84万円
	財源内訳
	都費 3,150万円
	決算説明書掲載ページ
交付する医療証のイメージ画	【歳入】55ページ 【歳出】189、191ページ
<p>児童の保健の向上と健やかな育成を図り、もって子育て支援に資することを目的に、令和5年4月より、高等学校就学相当年齢を養育している方に対し、児童に係る医療費の一部の助成を開始しました。</p>	

インフルエンザワクチン予防接種費用助成を拡充	
子育て支援課（母子保健係） ☎042-497-2077	
実施期間 R5.10.15～R6.1.31	事業費 806万円
	予防接種委託費 806万円
	財源内訳
	一般財源 806万円
	決算説明書掲載ページ
注射器とバイアル瓶、撃退されるウイルス	【歳出】219ページ
<p>重点項目「子育てが楽しいと思えるまちに」の更なる推進に向けて、インフルエンザの感染予防や感染時の重症化リスク軽減のためのインフルエンザ予防接種費用助成について、令和5年度より対象年齢を18歳以下までに拡充しました。</p>	

小中学校の照明器具LED化工事（芝小・五中）を実施	
教育企画課 ☎042-497-3185	
工事完了日 R5.10.13	事業費 9,970万円
	LED化改修工事費 9,970万円
	財源内訳
	国費 2,597万円
	都費 1,850万円
	公共施設整備基金 1,700万円
市債 3,800万円	
一般財源 23万円	
決算説明書掲載ページ	
芝山小学校体育館 LED照明設置状況	【歳入】 49、53、67、77ページ 【歳出】 297、307ページ
<p>水銀灯の製造中止への対応や老朽化した照明器具の更新、省エネルギー化による二酸化炭素排出量の削減に向けて、市内小中学校の校舎や体育館の照明器具について、順次LED化へ向けた改修を進めています。令和5年度は、芝山小学校および清瀬第五中学校の校舎・体育館のLED化改修工事を行いました。</p>	

④ 豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち

「きよバス」EVバス車両を購入	
道路交通課 ☎042-497-2090	
納車日 R5.12.19	事業費 2,255万円
	車両購入費 2,255万円
	財源内訳
	国費 513万円
	都費 1,621万円
	一般財源 121万円
決算説明書掲載ページ	
新たに導入したきよバス（EVバス）	【歳入】 45、53ページ 【歳出】 115ページ
<p>2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、100%電気で走るEV（電気自動車）バスを「きよバス」の車両として1台購入しました。</p>	

清瀬駅周辺の未来構想ビジョン基礎調査を実施		
未来創造課 ☎042-497-1802		
事業完了日 R6.3.31	事業費 1,000万円	
	調査委託費 1,000万円	
	財源内訳	
	一般財源 1,000万円	
	決算説明書掲載ページ	
	現在の清瀬駅周辺	【歳出】 105、107ページ
<p>まちの中心地・玄関口である清瀬駅周辺の機能強化・にぎわい創出に向けて、駅周辺地区の現状を把握するための現況調査や関係者へのヒアリング、市民ワークショップ、今後の課題整理等を行いました。調査結果をもとに、令和6年度から令和7年度にかけて清瀬駅周辺の未来構想ビジョンの策定を進めます。</p>		

清瀬ひまわりフェスティバルの開催	
産業振興課（農政係） ☎042-497-2052	
実施期間 R5.7.22~R5.7.30	事業費 2,377万円
	清瀬ひまわりフェスティバル事業費補助金 2,377万円
	財源内訳
	都費 500万円 まちづくり応援基金 200万円 一般財源 1,677万円
決算説明書掲載ページ	
多くの来場者が訪れた清瀬ひまわりフェスティバル	【歳入】59、67ページ 【歳出】237ページ
<p>令和5年7月22日から7月30日までの期間で、下清戸三丁目地区の約24,000㎡の農地で約10万本のひまわりを鑑賞できる「清瀬ひまわりフェスティバル」を4年振りに開催しました。令和5年度は、オーバーツーリズム対策として事前予約制の導入など、新たな取組みを実施しました。</p>	

地域情報基盤アプリ（きよせニンニンポイントアプリ）を導入	
産業振興課（商工係） ☎042-497-3187	
運用開始日 R5.7月	事業費 1,904万円
	地域情報基盤アプリケーション事業費補助金 1,904万円
	財源内訳
	国費 291万円 都費 1,613万円
決算説明書掲載ページ	
きよせニンニンポイントアプリ（イメージ）	【歳入】45、53、59ページ 【歳出】239ページ
<p>市と清瀬商工会が連携してポイント付与機能や決済機能、地域の情報発信機能等を持つアプリケーションを構築しました。また、アプリケーションに関するアンケートに回答した方に2,000ポイントを付与し、ポイントを使用後、さらにアンケートに回答することで、使用したポイントの30%を還元するキャンペーンを実施しました。</p>	

けやき通りグランドデザインを策定	
水と緑と公園課 ☎042-497-3267	
事業完了日 R6.3.31	事業費 748万円
	策定委託費 748万円
	財源内訳
	一般財源 748万円
決算説明書掲載ページ	
けやき通りの様子	【歳出】263ページ
<p>本市への来訪者を迎える代表的な通りであるけやき通りについて、市民が誇れるシンボルロードとしての機能向上と、将来にわたり清瀬市らしい景観の維持向上を図ることを目的として、けやき通りの魅力向上と今後のあり方についてを定めた「けやき通りグランドデザイン」を策定しました。</p>	

⑤ 都市格が高いまち

清瀬市議会ペーパーレス会議システム用タブレット端末機器等を購入	
議会事務局 ☎042-497-2566	
導入日 R5.10.18	事業費 505万円
	タブレット購入費 505万円
	財源内訳
	諸収入 505万円
タブレット端末を使った資料の閲覧	決算説明書掲載ページ 【歳入】73ページ 【歳出】85ページ
<p>DX推進の取組として、議会にタブレット端末を導入し、会議における紙資料を電子化することで、経費削減と議会運営の効率化を図りました。加えて、大量の資料を持ち運ばずとも、容易に過去の資料の閲覧や共有ができることから、携帯性・検索性・災害対応における利便性も向上させました。</p>	

清瀬駅開業100周年に向けた記念事業を実施	
シティプロモーション課 ☎042-497-1808	
実施期間 通年	事業費 600万円
	記念グッズ等製作・製造委託費 424万円
	印刷製本費 162万円
	その他諸費 14万円
	財源内訳
	都費 282万円
	一般財源 318万円
清瀬駅開業100周年記念グッズ等	決算説明書掲載ページ 【歳入】53ページ 【歳出】109ページ
<p>令和6年6月に清瀬駅が開業100周年を迎えることから、この節目を記念し、様々な周年事業や式典を開催するに当たっての機運醸成を図るため、100周年記念ロゴマークや各種啓発グッズの製作・製造を行いました。</p>	

きよせ市民まつりの開催	
市民協働課 ☎042-497-1803	
事業実施日 R5.10.22	事業費 300万円
	補助金 300万円
	財源内訳
	一般財源 300万円
きよせ市民まつり会場の様子	決算説明書掲載ページ 【歳出】121ページ
<p>コロナ禍で中止が続いていた「きよせ市民まつり」を、4年ぶりに開催しました。市民企画のステージ（8団体）や清瀬親善大使任命式、清瀬駅開業100周年記念事業のPR等を行い、約41,000名の来場者で賑わいました。</p>	

決算の特徴

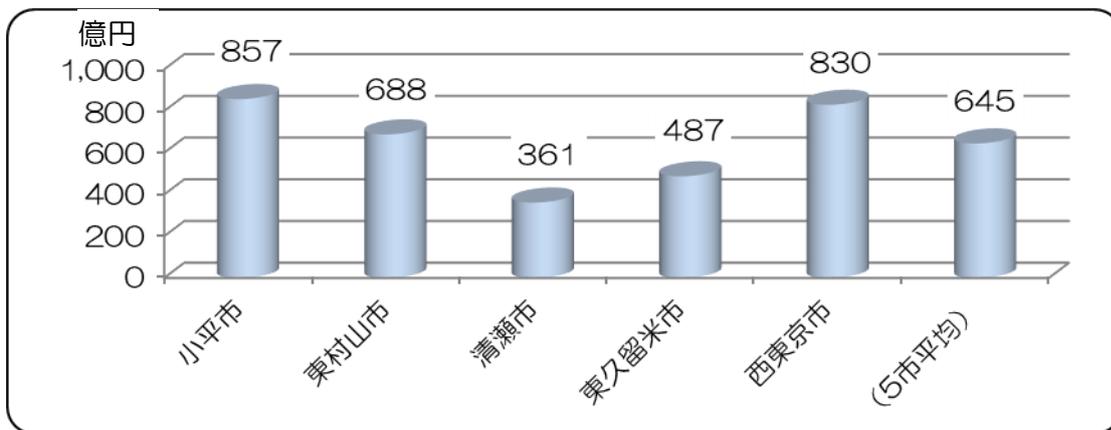


清瀬市の決算額は他の市と比べてどれくらいの規模なのでしょうか？



1～5 ページで見たとおり、清瀬市の令和5年度歳出決算額は 361 億 910 万円でした。この決算額は、市民の皆さんにとっては大きすぎる金額のため、イメージしづらいかもかもしれません。そこで、361 億 910 万円という決算額が、市としてどれほどの規模なのか、近隣5市と比べてみましょう。

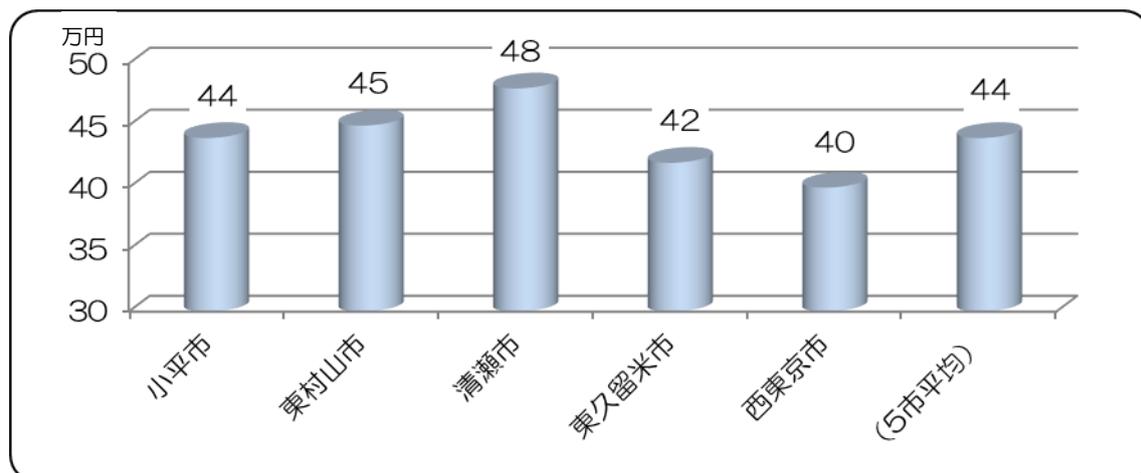
【近隣5市との比較：決算額（歳出）】



決算額（歳出）を比較すると、清瀬市の財政規模は近隣5市で最も低い水準です。これは、他の市に比べて人口が少ないことと、面積が小さいためです。

では、清瀬市で行っている行政サービスの水準は、近隣市と比べて低いのでしょうか？

【近隣5市との比較：市民1人あたり決算額】



決算額（歳出）をそれぞれの人口（令和6年1月1日現在）で割ると、市民1人あたりに平均してどれだけ行政サービスを行ったかが分かります。

令和5年度については、清瀬市は市民1人あたり48万円の行政サービスを提供しており、近隣市のなかで最も高い水準です。

積立金現在高の状況

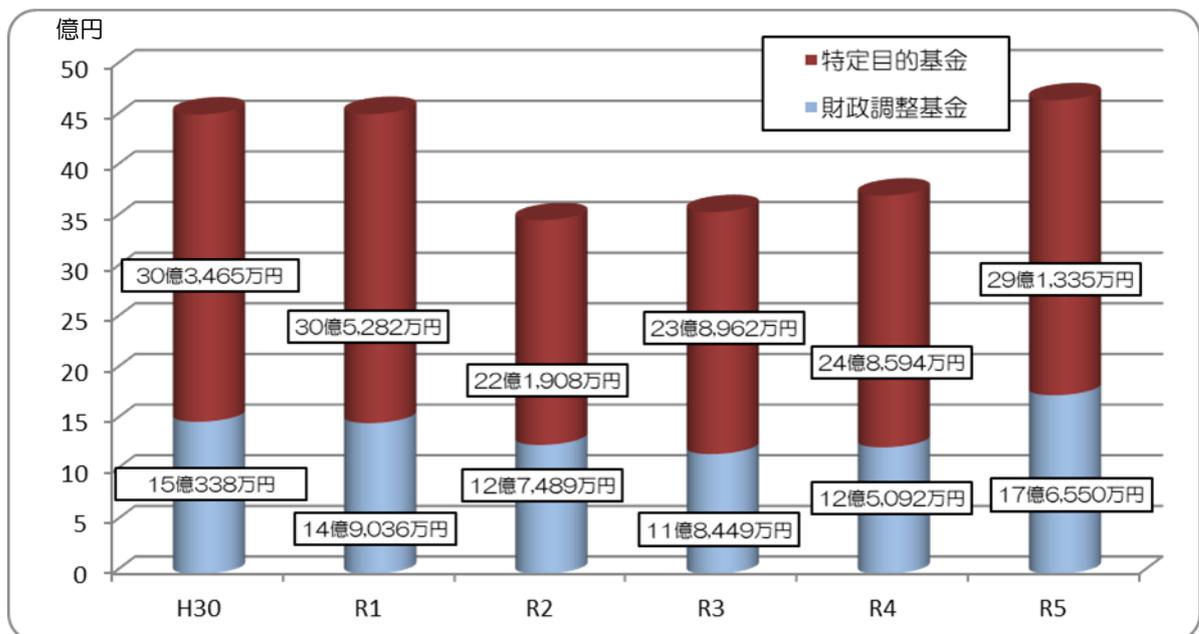


毎年たくさんのお金を使って道路や学校の整備、様々な行政サービスを提供していますが、清瀬市には貯金はあるのでしょうか？



市役所では、一般家庭における貯金にあたる「基金」を持っています。基金には、決算が黒字だったときに残ったお金を積み立てておき、お金が足りなくなったときに取り崩して使うための「**財政調整基金**」と、今後行う事業に使うために計画的に積み立てておく「**特定目的基金**」があります。特定目的基金には、庁舎や公共施設の整備に使うための「**公共施設整備基金**」や市内の雑木林や公園などの整備に使うための「**緑地保全基金**」、まちづくり応援寄附として頂いたお金を一時的に積み立てておく「**まちづくり応援基金**」などがあります。

【基金残高の推移】



※特定目的基金は減債基金を含んだ数値です。

上のグラフのうち、各年度の下側が財政調整基金です。残高の推移をみると、行財政改革の推進により捻出された財源などを積み立てたことにより、平成30年度以降は11億円から15億円台を維持しています。

また、特定目的基金については、小学校体育館大規模改修事業などの財源とするため公共施設整備基金から1億3,400万円の取崩しを行いました。清瀬駅南口地域児童館等複合施設整備事業などに備えるため公共施設整備基金に6億1,680万円を積み立てたことなどから、29億1,335万円となりました。

今後は、前述の通り公共施設の整備のほか、さらには年々膨らむ社会保障関係経費などの経常経費（市が任意に削減できない義務的経費（人件費・扶助費・公債費）などの毎年決まって支出されるお金）の増加が見込まれています。このようなことから、財政調整基金及び特定目的基金への積み立てを計画的に行う必要があります。

財政指標



清瀬市の財政状況は良いのでしょうか？それとも悪いのでしょうか？



清瀬市の財政状況を知るためには、様々な財政指標をみることで把握することが出来ます。そのなかでも財政状況を分析するのによく使われる「**経常収支比率**」と「**財政力指数**」から清瀬市の財政状況を見て行きましょう。

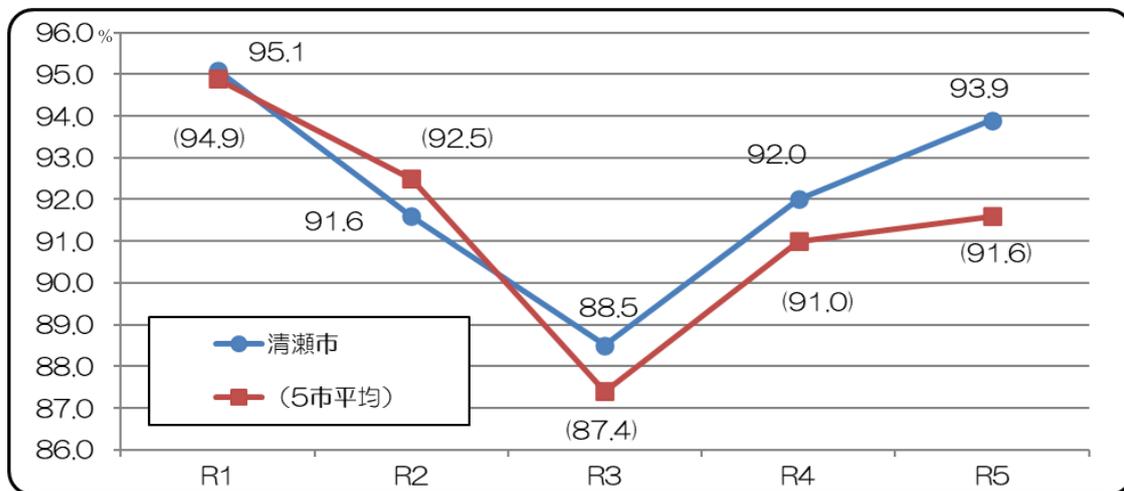
① 経常収支比率

経常収支比率は、市税など毎年決まって収入されるお金が扶助費や公債費など毎年必ず支払わなければならない経費にどれくらい使われているかを示しています。つまり、「自由に使えるお金が、どれだけ使い道を縛られているか」を意味します。一般的には 70~80%が適正水準とされています。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費に使った一般財源}^{\ast}}{\text{毎年収入が見込める一般財源}} \times 100$$

※ { 一般財源：市税や地方交付税など、市の判断でいかなる経費にも使うことができるお金
特定財源：国・都支出金や建設地方債など、特定の経費に使うことが義務付けられているお金

【近隣5市との比較：経常収支比率の推移】



清瀬市の経常収支比率は、令和5年度決算で93.9%と前年度よりも1.9ポイント悪化し、近隣5市平均と比較して高い水準となっています。

令和5年度の93.9%という経常収支比率を家計に例えると、30万円の給料のうち、93.9%である28万1,700円を食費や家賃などの生活費に使っていることになり、自由に使えるのは残りの1万8,300円しかありません。

しかしながら、これは限りある収入の中で高い水準の生活を維持している結果でもあります。生活費を削減すれば家計は表面上改善するものの、生活水準は低下しかねません。自治体においても、経常経費の削減は行政サービスの低下につながる可能性がありますので、慎重な判断が求められています。

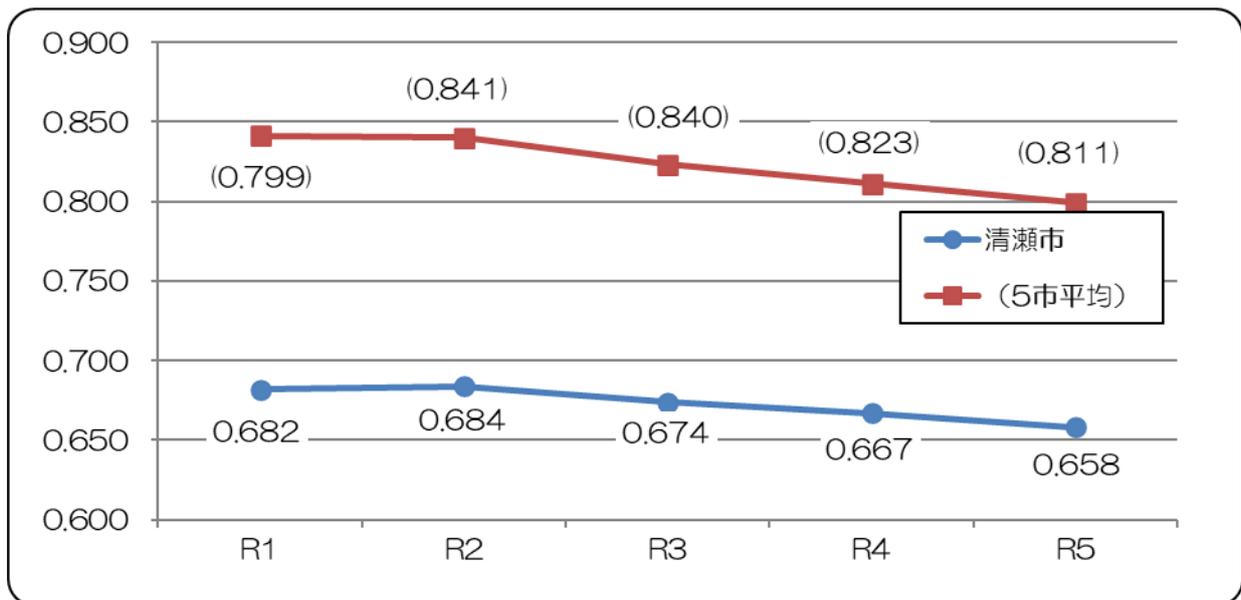
② 財政力指数

清瀬市が行っている行政サービスにかかるお金の一部は、国や都からの補助金で賄っていますが、清瀬市も市税等の一般財源で負担する必要があります。この清瀬市が負担すべき一般財源のうち、どれくらい独自で調達できているのかを示すのが財政力指数です。

$$\text{財政力指数} = \frac{\text{基準財政収入額（市が独自で調達できる一般財源）}}{\text{基準財政需要額（市が負担すべき一般財源）}}$$

例えば、市が独自で調達できる一般財源が70億円で、市が負担すべき一般財源が100億円の場合、財政力指数は0.7となります。財政力指数が1を割っているため、「財源が不足している団体」とされ、国から地方交付税（普通交付税）が交付されます。財政力指数が1を超えると、「財源が豊かな団体」とされ、普通交付税を受け取ることはできません。

【近隣5市との比較：財政力指数の推移】



※各年度の数値は、その年度を含む3年間の平均値です。

清瀬市の財政力指数は0.6程度で、国からの普通交付税により一般財源の不足分を補っています。特に近年は、高齢化などによる社会保障関係経費の増加が影響し、普通交付税に頼らざるを得ない傾向が強まっています。

普通交付税額の推移

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
普通交付税額	39億2,866万円	38億2,773万円	45億8,479万円	46億1,323万円	46億4,089万円

ここまで経常収支比率、財政力指数をみてきましたが、清瀬市の指標はいずれも改善が必要な数値となっています。これからわかるとおり、決して清瀬市の財政状況は良いとは言えません。今後も、指標の改善を目指して行財政改革の推進など、より一層の努力をしていかなければなりません。

借金と将来負担



学校や道路などの整備にはたくさんのお金がかかりそうですが、市税や国、都からの補助金だけで足りるのでしょうか？

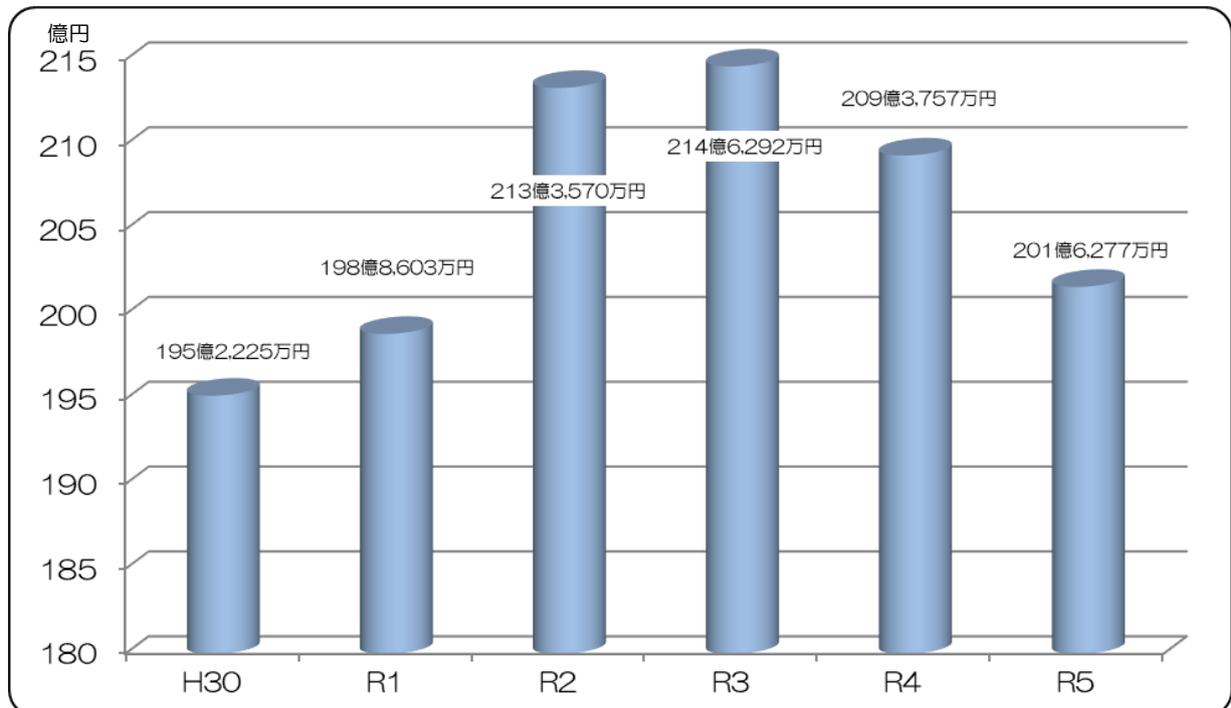


学校や道路などの整備には、たくさんのお金が必要となり、その年の税収だけでこれらの事業を行ってしまうと、他の事業を行うためのお金が不足してしまいます。そのため、借金をしてその年の負担を減らしています。

また、学校や道路は長期間にわたって利用されます。そのため、借金をして整備費を払い、翌年度以降の借金返済に市税を充てることで、将来の世代にも費用の一部を負担していただいています。「借金」には何かと悪いイメージが付きまといますが、市の借金である「地方債」には、年度間・世代間の負担調整という役目もあります。

清瀬市では、令和5年度に一般会計で11億2,600万円の借り入れをして、19億6,719万円（うち元金19億79万円）の返済をしたことで、借金の残高は201億6,277万円になりました。借入額よりも元金の返済額が上回ったため、令和5年度の地方債残高は減少しました。

【一般会計の地方債残高の推移】



新庁舎建設事業の財源とするため、H30年度からR3年度にかけて22億4,600万円の市債を発行したことにより地方債残高は増加傾向にありましたが、市債の発行基準を設けるなど、地方債残高の縮減に努めてきました。

しかし、今後は清瀬駅南口地域児童館等複合施設整備事業などに多額のお金が必要となり、その一部を借金によって賄うことが予定されているので、地方債の残高にはこれまで以上に気を配る必要があります。

赤字補てんの地方債

原則的に、市は公共施設や社会資本の整備のためにしか借金をすることができないと地方財政法で定められています。しかしながら、特定の条件付きで、不足した一般財源を補うために借金をしてもよいという特例が設けられています。そのなかでも、金額が大きいのが**臨時財政対策債**です。

これは国が普通交付税に必要なお金を確保できなくなったことから、普通交付税の一部を交付せず、代わりに市が借金をすることができるというもので、平成13年度から継続して行われています。

これは赤字補てんの地方債であり、社会問題となっている赤字国債と同じ性質のものです。

臨時財政対策債の借入額の推移

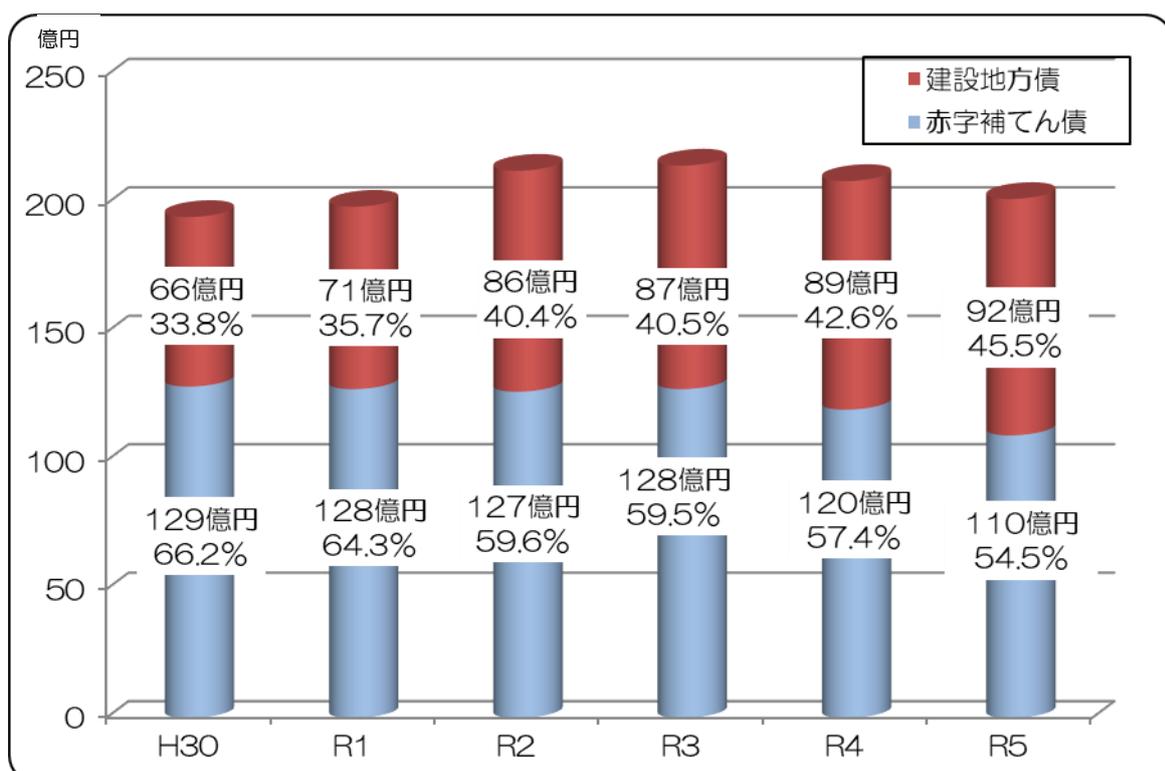
年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
借入額	9億800万円	8億6,100万円	12億1,000万円	3億2,000万円	1億4,700万円

上の表のとおり、毎年多額の臨時財政対策債を借り続けています。

臨時財政対策債などの赤字補てん債は、社会資本の整備につながらない、その場しのぎの借金です。借り入れは抑制するべきではありますが、財政力指数が0.6程度しかない清瀬市では、独自で一般財源を用意することができないため、臨時財政対策債を活用しなければならない状況が続いています。

【建設地方債と赤字補てん債（臨時財政対策債を含む）の残高】

地方債残高の内訳をみると、特例措置であるはずの赤字補てん債の残高が建設地方債を上回り、今後もこの状況が続くことが予想されます。臨時財政対策債については、その返済金の全額が翌年度以降の普通交付税の算定で算入されることになっていますが、国の財源不足を地方の借金に転嫁する方法には問題があると清瀬市では考えています。



借金返済の負担率

市で行う借金は、公共施設や社会資本の整備に不可欠ですが、その返済金が大きくなりすぎると、財政運営は困難になります。そこで、**実質公債費比率**という指標を使い、収入に対する借金返済額の割合をチェックします。

【実質公債費比率の算出方法】

分子

【清瀬市が負担している公債費】
(地方交付税に算入されている公債費などは除く)

R3年度 6.0億円
R4年度 5.9億円
R5年度 6.3億円

実質公債費比率の推移

R1	R2	R3	R4	R5
3.5%	3.7%	3.9%	4.0%	4.0%

分母

【清瀬市の収入規模】
(地方交付税に算入されている公債費などは除く)

R3年度 152.4億円
R4年度 148.5億円
R5年度 151.6億円

= 4.0%
(3カ年の率の平均)

注意すべき水準：25.0%
危険水準：35.0%

実質公債費比率は、25%を超えると要注意状態と見なされます。この比率は、3か年の平均で求めます。清瀬市は昨年度と比べ±0.0%の4.0%となっており、基準内に収まっています。

また、**将来負担比率**という指標を使い、将来負担すべき借金返済額の標準的な収入に対する割合をチェックします。

【将来負担比率の算出方法】

分子

【将来の公債費に充てる一般財源】
41.0億円

将来負担比率の推移

R1	R2	R3	R4	R5
23.8%	41.9%	37.2%	36.3%	27.0%

= 27.0%

分母

【清瀬市の収入規模】
(地方交付税に算入されている公債費などは除く)
151.6億円

注意すべき水準：350.0%

将来負担比率が350%を超えると要注意状態にあると見なされます。新庁舎建設事業の財源とするため、H30年度からR3年度にかけて22億4,600万円の市債を発行したことにより増加しましたが、清瀬市は27.0%で基準内に収まっています。なお、将来負担比率は、公共施設整備基金の積み立てなど、将来負担の軽減につながる基金の増加などにより、減少となっています。

人件費削減の取組

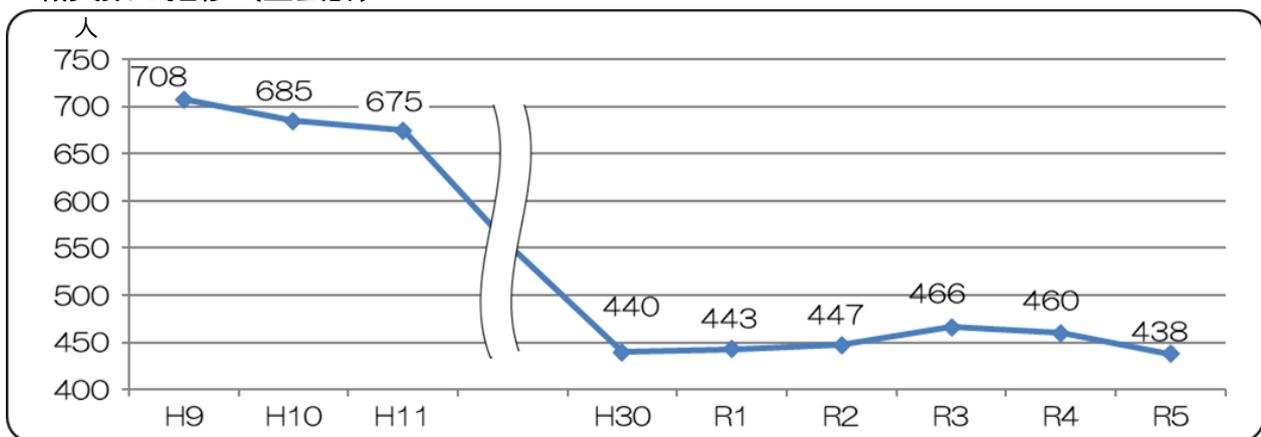


いろいろな財政指標をみてみると清瀬市の財政状況は厳しいようですが、財政状況を改善していくために取り組んでいることはありますか？



バブル崩壊後の厳しい経済状況により、清瀬市は行財政改革に取り組みました。そのひとつが職員数を減らすことであり、人件費の削減を推進してきました。平成9年度には708人の正規職員がいましたが、令和5年度には438人と平成9年度と比較して270人の削減を行いました。

職員数の推移（全会計）

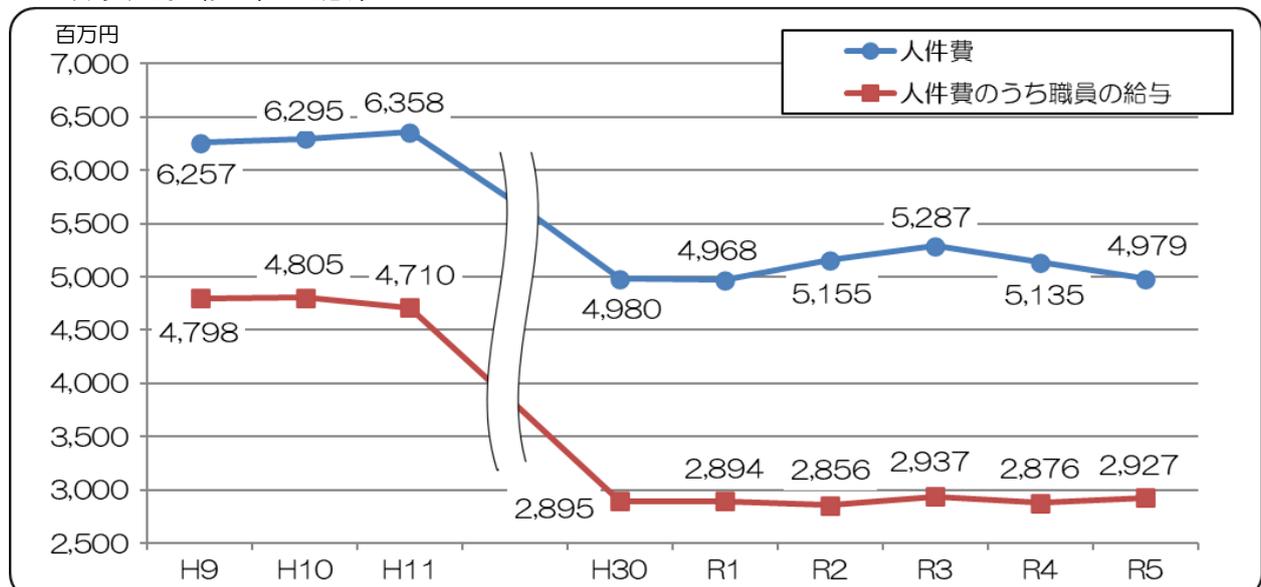


※職員数は各年度4月1日現在です。

※平成27年度からは教育長を除いた数値です。

この取り組みにより職員の給与や、議員の報酬、非常勤職員の報酬などの人件費は一番多かった平成11年度の63億5,800万円に対して、令和5年度は49億7,900万円であり、13億7,900万円削減しています。1年間に支払う職員の給与については、ピークであった平成10年の48億500万円に対して、令和5年度は29億2,700万円であり、18億7,800万円削減しています。

人件費の推移（全会計）



『清瀬市のわかりやすい決算書』
～清瀬市のまちづくり報告書～
令和7年3月発行

清瀬市経営政策部財政課財政係

〒204-8511

東京都清瀬市中里 5-842

TEL 042-497-1810 (直通)

TEL 042-492-5111 (内線 3131～3134)